WMS-R｜5つの指標を残す

日本版ウエクスラー記憶検査 Clinical record / 01

氏名・ID：_____ 年齢：_____歳_____か月

評価日：____年____月____日 評価者：_____

使用版：日本版WMS-R 実施範囲：全版・短縮版・その他（ ）

1 実施条件

入力・理解	視力・聴力・言語理解／使用した補助具：
反応・体調	描画・上肢操作／覚醒・疲労・睡眠・服薬：
受検歴・環境	前回の日付／検査経験・中断・同席者：

2 正規用紙の指標得点を転記

日本版の適用年齢は16〜74歳。年齢換算を確認し、未実施を0点に置き換えません。指標得点の100は満点ではなく平均です（標準偏差15）。

指標	指標得点	解釈に添える観察
言語性記憶	_____	
視覚性記憶	_____	
一般的記憶	_____	
注意／集中力	_____	
遅延再生	_____	

3 数値と一緒に確認すること

換算に用いた年齢区分・資料：_____

解釈に影響した条件：_____

指標差を検討した資料・結果：_____

生活で別に確かめること：_____

一般的記憶は、言語性・視覚性の指標得点の単純平均ではありません。指標差の判断は正規の資料に従い、一つの低値だけで診断や病巣を決めません。

WMS-R｜反応と時刻を残す

初回と遅延を分ける Clinical record / 02

氏名・ID：_____ 評価日：_____

4 課題別の観察メモ

実際の発言、情報の抜け・付加、選び方、描画の特徴を記録します。正式な教示・提示時間・中止条件・採点は正規資料に従います。

課題	反応・条件のメモ
1 情報と見当識	_____
2 精神統制	_____
3 図形の記憶	_____
4 論理的記憶 I	_____
5 視覚性対連合 I	_____
6 言語性対連合 I	_____
7 視覚性再生 I	_____
8 数唱（順唱／逆唱）	_____
9 視覚性記憶範囲（同順／逆順）	_____
10 論理的記憶 II	_____
11 視覚性対連合 II	_____
12 言語性対連合 II	_____
13 視覚性再生 II	_____

5 遅延課題の時間管理

対応する課題	初回終了	遅延開始	中断・休憩等
論理的記憶	____:____	____:____	
視覚性対連合	____:____	____:____	
言語性対連合	____:____	____:____	
視覚性再生	____:____	____:____	

指定の順序・間隔で実施します。時刻欄は条件を残すためのもので、一律の待ち時間を追加する指示ではありません。

WMS-R｜生活で支援を試す

検査から、次に確かめる場面へ Clinical record / 03

6 支援を試す計画

本人の困りごと・場面	
検査から考えた仮説	
試す支援／担当・確認日	

7 支援前後の変化を比べる

確認する内容	支援前	支援後
必要な情報を確認できたか		
用事を開始・完了したか		
促し・援助の内容と回数		
別の日・別の場面で使えたか		

8 カルテ・申し送り

架空例：言語課題で初回から情報の抜けを認めた。生活では予約説明を日付・場所・持ち物に分け、短いメモを添えると確認できた。翌日の準備では口頭の促しを要した。次回は自分からメモを開くか、準備を完了できるかを確認する。

今回の事実／次に確かめること：

正規資料：日本文化科学社「日本版WMS-R」。参考：Kawanoほか（2013）、Theisenほか（1998）、Velikonjaほか（2023）。

STROKE LAB編集の転記・観察用紙です。正式な教示・刺激・採点換算は日本版の正規資料をご確認ください。